

令和元年度事業報告

公益社団法人日本馬術連盟（JEF）は、平成 31 年 3 月 7 日開催の平成 30 年度第 7 回定例理事会において承認された令和元年度の事業計画及び収支予算に基づき、以下の事業を実施した。なお、一部については、期中に補正を行った。

令和元年度の特記事項として、8 月に東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、東京 2020 大会）のテストイベントを公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会（以下、東京 2020 組織委員会）と共催した。ドイツ、イギリス、オーストラリアを含む 17 人馬の参加があり、多くの関係者によりオリンピック本番に向けてのテストを行った。

国際競技会における特に優秀な成績として、総合馬術では、ネーションズカップ最終戦において日本ナショナルチームが 3 位となった。また、4 スター競技で、戸本一真選手が優勝 3 回、大岩義明選手が優勝 1 回、田中利幸選手が優勝 1 回した。障害馬術では、広田思乃選手が 19 年振りにワールドカップファイナルの決勝に進出、川合正育選手が CSI 4 *-W で優勝、杉谷泰造選手が第 1 回 FEI アジア選手権大会で優勝した。馬場馬術では 4 スターグランプリ競技で北原広之選手が優勝 1 回、原田喜市選手が優勝 1 回した。

2 月に発生した新型コロナウイルス感染症拡大のため、JEF 主催講習会・検定試験及び障害馬術ドイツ合宿（ヤング・ジュニア・チルドレン）並びに総合馬術オーストラリア合宿を中止した。また、公認競技会の一部が中止となった。

東京 2020 大会も 3 月 24 日に延期が決定し、オリンピック競技大会を 2021 年 7 月 23 日～8 月 8 日、パラリンピック競技大会を 2021 年 8 月 24 日～9 月 5 日に開催することが 3 月 31 日に決定した。

各事業については、以下のとおり、

1. 馬術の普及・振興

(1) 馬術に関する情報システムの運営

- ① ウェブサイト及び SNS を運営し、競技会や規程の改正などの情報につき迅速に広報した。
- ② 会員とのコミュニケーション手段としてウェブサイトを活用するとともに月刊機関誌『馬術情報』とリンクし、広報活動の充実を図った。
- ③ 馬術ファンサイト「A to Zinba」を適宜更新した。
- ④ 利用者の利便性と業務の円滑化を向上させるべく日馬連情報システムを運営・管理した。

(2) 機関誌発行

- ① 紙媒体の特性を生かして情報を的確に伝達し、馬術の振興及び各種記録の保存に資するため『馬術情報』を刊行した。
 - ② 『馬術情報』を日馬連会員、関係団体、マスコミ各社に配布するとともに、一般購読者に販売した（7,800部×12か月）。
- (3) 馬術関係資料の作成・配布
- 各種規程集及び日馬連で扱う馬術競技の紹介・ルール解説等の資料を作成し、頒布した。
- (4) マーケティング活動
- ① JEF スポンサーとして、オフィシャルパートナー3社（株式会社 LIXIL・セコム株式会社・株式会社 AOKI）、オフィシャルサポーター5社（日本航空株式会社・エルメスジャパン株式会社・セガサミーホールディングス株式会社・株式会社パソナグループ・アース製薬株式会社）及びオフィシャルサプライヤー1社（デサントジャパン株式会社）が就任した。
 - ② パートナーシッププログラムを適切に実施した。
 - ③ 馬術スペシャルアンバサダー及び馬術アンバサダーライダー（3名）を任命し、幅広い層に対して馬術の認知度・魅力を広めた。また、馬術応援団を継続起用した。
 - ④ 馬術競技振興イベントとして、メディア向け「馬術競技スペシャル講座」・JRA 東京競馬場とのコラボイベント・東京 2020 大会 1 年前イベント等を実施、協力した。
- (5) 主催競技会の放映・動画配信
- ① NHK における主催競技会のテレビ放映実施に協力した（Eテレ1回）。
 - ② インターネットを活用し、競技会のライブ配信を20回（他団体主催10回を含む）実施した。
- (6) 各種表彰
- ① 永年に亘り馬術界に功績のあった7名（功労者1名、地域功労者6名）8頭を表彰した。また、優秀な成績を収めた人馬4名7頭を表彰した。
 - ② 海外で特に活躍した選手を対象とするスポンサー特別表彰として、広田思乃選手、北原広之選手、戸本一真選手を表彰した。
 - ③ 競技馬の資質向上のための奨励策として、優秀乗馬飼育奨励金を交付した。
 - ④ 競技馬の資源確保、調教技術向上のため内国産馬の活用振興を図り、その奨励策として内国産優秀乗馬飼育奨励金を交付した。
 - ⑤ 優秀な成績を収めた内国産馬の所有者・生産者を表彰した。
- (7) NF 活動（National Federation：国内を統括するスポーツ団体）の推進
- ①（公財）日本オリンピック委員会及び（公財）日本スポーツ協会の会議等に積極的に参加した（26回）。
 - ② 国際馬術連盟（FEI）及びアジア馬術連盟（AEF）の活動に参画し（関連会議等5

回)、日本馬術界の国際的地位向上に努めた。また、IF ポストの獲得のための活動を実施し、FEI ノミネーション委員会委員ポストを獲得した。

- ③ NFとして適正に事業運営するため、ガバナンスの強化を目的に、組成・基盤団体の倫理規程の整備状況を調査し、未整備の団体に対して適切に指導した。
また、会員倫理規程違反により会員1名に対し資格停止3か月の処分を行った。

(8) 馬術基盤の維持拡大

- ① 馬術振興の一翼を担う組成団体に対し、その加盟する団体が所有する馬について、飼育費助成及び優秀乗馬助成を行った。また、都道府県馬術連盟及び組成団体の事業費・事務費の助成を行った。
- ② 馬事関連団体と連携し、馬術の普及・振興に努めた。
- ③ 2020年のアーヘン国際馬術大会ジャパンイヤー及びハーゲン国際馬術大会ジャパンイヤーに向けて準備を行った（新型コロナウイルス感染症拡大により中止）。
- ④ 国内の乗用馬生産団体に対して必要な助言を行うとともに、内国産限定競技を主催競技会に組み入れる等、内国産馬の振興に努めた。
- ⑤ JRA 馬事公苑整備工事期間中に安定的に各種大会が開催されるよう「各種馬術競技会開催等支援事業」を7主催者18競技大会について支援を行った。併せて、これら競技会への参加促進のため、関東学生馬術協会加盟馬術部の活動支援を行った。また、馬の多様な利活用に取り組む全国の大学馬術部を対象に、活動支援を行った。（JRA 特別振興資金事業）
- ⑥ インテグリティに関する意識向上を促進のため、JOC セミナーに指導者（1名）及び選手（8名）が参加した。

2. 会員と乗馬の登録

- ① 会員登録選手、指導者及び団体の活動をサポートするため、登録会員（6,904：個人6,254、県馬連所属団体394、組成団体所属団体256）及び乗馬（3,973）の登録を行った。
- ② FEI 公認競技会に参加する人馬（選手135名、馬匹200頭）及び競技役員のFEI登録事務を行った。
- ③ 「JEF 情報システム」を活用し、登録事務の合理化を図った。

3. 競技会規程の制定及び各種資格の認定

(1) 競技会規程の制定・整備

JEF の各種規程の制定及び改廃を行った。また、FEI 各種規程の制定・改廃に対応して、国内規程を改正し、FEI 規程の国内適用を図った。

(2) 競技役員資格

- ① 審判員等技術役員の資格認定・更新・昇格及び技術向上のため講習会・認定試験

を実施（7回）するとともに、都道府県馬連等が開催する講習会を公認（14回）した。

- ② コースデザイナー講習会を3回（障害2・総合1）実施した。
- ③ 講習会の内容の統一のため、講師の研修会を開催（1回）した。
- ④ 国際競技役員を養成するため、FEI 公認の講習会（総合1回）を主催した。また、海外で開催される講習会（馬場1回・総合1回）に参加する競技役員を支援した。また、馬場審判員（1名）の欧州研修を支援した。

（3）指導者資格

- ① 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者
（公財）日本スポーツ協会が制定する公認スポーツ指導者制度に基づく統一カリキュラムに則り、馬術に特化したコーチ・指導員を日馬連が養成し、資格の認定を行った（講習会3回）。
- ② 日本馬術連盟認定指導員
馬術指導者の資格認定・更新並びに専門知識習得と資質向上のため、日馬連独自のカリキュラムに則って講習を行い、検定試験を実施して資格を付与した（38名）。

（4）選手の資格認定

主催・公認競技会及び国際競技会参加のための騎乗者の技術レベルを判定し資格認定・登録を行った。（A級22名、B級409名、C級117名）都道府県等が開催する騎乗者資格認定のための審査会（B級25回、C級25回）を規程に基づいて公認した。

（5）競技会の公認

JEF 公認競技会のカテゴリー制・馬のグレード制を円滑に運営し、競技の活性化に努めた（障害110、馬場65、総合7、エンデュランス21：合計203）。なお、台風や新型コロナウイルス感染症拡大により15の公認競技会（障害5・馬場7・エンデュランス3）が中止となった。

4. 選手の強化

（1）東京2020大会に向けた馬術競技強化対策事業（JRA 特別振興資金事業）

- ① 強化体制の整備として、昨年度に引き続きドイツ（障害・馬場）及びフランス（総合）に設置した JEF 海外トレーニング拠点3か所を運用した。また、ジェネラルマネージャー、シニアマネージャー等の海外コーチングチームを設置した。
- ② 海外競技活動支援として14名（障害10・馬場1・総合3）に活動補助費を交付した。
- ③ 優良競技馬による競技活動支援を目的に、4頭（障害2・総合2）を購入した。
※優良競技馬の合計15頭（障害9・総合6）
- ④ 馬場馬術（1名）と総合馬術（1名）の育成選手を JEF 海外トレーニング拠点に配

置した。

(2) 選手強化対策

- ① 東京 2020 大会に関する馬場馬術選手ミーティングをドイツで開催した。また、総合馬術選手ミーティングを巡回形式で実施した（5 か所：英国 2 ・ドイツ 2 ・仏国 1）。
- ② 騎乗・調教技術の向上を図るため、海外より講師を招聘して強化合宿を実施した（障害 1 ・馬場 1 ・総合 2）。
- ③ 優秀な成績を挙げた選手をナショナルチームメンバーに認定した（障害 22 人馬・プロGRESS 11 名・プロGRESSジュニア 17 名、馬場 7 人馬・プロGRESS 21 名・プロGRESSジュニア 20 名、総合 15 人馬・プロGRESS 11 名・プロGRESSジュニア 16 名）。

(3) ジュニア育成

- ① 国際レベルの選手を育成するため、ヤング・ジュニア層の発掘及び強化のため研修会を開催（9 回）するとともに、海外の競技会・強化訓練等に若手選手を派遣した（障害 1 回・馬場 1 回・総合 2 回）。なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で 2 回（障害 1 ・総合 1）の海外派遣が中止となった。
- ② ジュニアアスリート担当の JOC 専任コーチングディレクターを 2 名（馬場 1 ・総合 1）設置し、将来を担う若手の育成を図った。

(4) ナショナルトレーニングセンター（NTC）の活用

- ① ナショナルトレーニングセンター中核拠点施設馬術競技強化拠点としてスポーツ庁の指定を受けた御殿場市馬術・スポーツセンターを競技力強化に活用した（21 回 72 日、内 JEF 7 回 22 日）。
- ② 医科学サポートに関わるデータ収集として、「騎乗中における選手の心拍数測定」を実施した。

5. 競技会の開催

(1) 競技会の開催

全日本障害馬術大会（パート I ・パート II ・ジュニア）、全日本馬場馬術大会（パート I ・パート II ・ジュニア）、全日本総合馬術大会（パート I ・ヤング・ジュニア）、全日本エンデュランス馬術大会を主催した。また、障害・馬場の全日本ジュニア大会及び全日本ヤング総合馬術大会は JOC ジュニアオリンピックカップ大会として実施した。

(2) 競技会の共催

- ① 第 74 回国民体育大会馬術競技（茨城県）を文部科学省他の団体とともに、茨城県立水戸農業高等学校特設馬術競技場にて主催した。
- ② 全日本学生馬術大会 2019 及び第 91 回全日本学生馬術選手権・第 55 回全日本学

生馬術女子選手権大会について、全日本学生馬術連盟とともに主催した。また、第4回全日本高等学校自馬選手権について全日本高等学校馬術連盟とともに主催した。

- ③ 東京2020大会のテストイベント（CCI3*-S Tokyo：於 JRA 馬事公苑・海の森クロスカントリーコース）を、東京2020組織委員会とともに主催した。（8/11～14）

（3）FEI 公認競技会

- ① FEI 公認競技会を4回（総合4回）主催した。
- ② 日本国内で会員団体が主催する FEI 公認競技会13大会（障害8・馬場/パラ1・エンデュランス4）の開催を支援した。なお、台風及び新型コロナウイルス感染症拡大のため3大会（障害1・エンデュランス2）が中止となった。

（4）ドーピングの防止

- ① 講習会（3回）、強化合宿（2回）及び国体の打ち合わせ会における関係者に対する指導を通じて、馬のドーピング防止に努めた。
- ② 主催競技会（15頭）、FEI 公認競技会（19頭）において馬ドーピング検査を34頭に実施し、うち1頭（パラ馬術）が陽性だった。
- ③ （公財）日本アンチ・ドーピング機構と協力して、競技者のドーピング検査を12名に実施し、全件陰性だった。

6. 国際競技会への派遣

- ① 国際競技大会等へ選手・役員を派遣（障害9・馬場1・総合6）し、競技力向上に努めるとともに、海外の情報収集を図り、併せて国際交流・親善を深めた。

※主な派遣大会

- ・ CSI-W Final（於スウェーデン・イエーテボリ）
- ・ CSIO5* NC-Final Barcelona（於スペイン・バルセロナ）
- ・ CSIO5* Geesteren（於オランダ・ゲーステレン）
- ・ CCIO4*-L Boekelo（於オランダ・ブックロー）
- ・ CCI5*-L Badminton（於イギリス・バドミントン）
- ② ワールドカップ（障害）日本リーグでファイナルの出場資格を得た馬に対して、日本からの輸送を支援した。（新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止）
- ③ 海外の FEI 公認競技会に参加する日本選手（障害33名・馬場14名・総合8名）を支援した。

7. 東京2020大会の準備

- ① 東京2020大会及びテストイベントの、開催準備・防疫対策・メディア対応等について、FEI、東京2020組織委員会、JRA等と打ち合わせを28回実施した。
- ② 東京2020大会の NTO（ナショナル・テクニカル・オフィシャル）として、日本

から 21 名が東京 2020 組織委員会から指名された。なお、ITO（インターナショナル・テクニカル・オフィシャル）に日本から 2 名が FEI から指名された。

- ③ 東京 2020 大会の競技会役員養成の一環として、FEI 競技会におけるスチュワード実務研修（2 回・延べ 6 名）及びセクレタリー研修（3 回・延べ 10 名）を実施した。

会員と乗馬の登録

(1) 会員登録数

区 分	H31. 3. 31 (A)	入会	退会	R2. 3. 31 (B)	差引増減 (△減)	対前年比 (B/A)
① 正会員	55	0	0	55	0	100.00
イ. 都道府県馬術連盟	47	0	0	47	0	100.00
ロ. 組成団体	4	0	0	4	0	100.00
ハ. 学識経験者	4	0	0	4	0	100.00
② 登録会員	6,904	590	590	6,904	0	100.00
イ. 個人	6,244	571	561	6,254	10	100.16
ロ. 県馬連に所属する団体	395	11	12	394	△ 1	99.75
ハ. 組成団体に所属する団体	265	8	17	256	△ 9	96.60
全日本学生馬術連盟	80	0	1	79	△ 1	98.75
全日本高等学校馬術連盟	87	3	9	81	△ 6	93.10
日本乗馬少年団連盟	64	1	3	62	△ 2	96.88
日本社会人団体馬術連盟	34	4	4	34	0	100.00
③ 賛助会員	0	1	0	1	1	-

(2) 乗馬登録数

区 分	H31. 3. 31 (A)	登録	抹消	R2. 3. 31 (B)	差引増減 (△減)	対前年比 (B/A)
乗馬登録数	3,998	534	559	3,973	△ 25	99.37

(3) FEI登録数

区 分	選手	馬匹	トレーナー
障害馬術	58	87	
馬場馬術	33	48	
総合馬術	18	26	
エンデュランス	14	17	2
軽乗	0	0	
パラ馬術	12	22	
レイニング	0	0	
合 計	135	200	2

(4) 乗馬登録数

令和元年度 FEIパスポート（リコグニションカードを含む）交付・更新・変更数

新規交付	10	(うちマイクロチップ埋込み 1件)
更 新	27	
変 更	32	
再発行	0	